の3種で、それぞれ6~7月、7~8月及び7~8月に最も繁殖する。蚊の季節的消長は、岡山縣倉敷市に酷似する。北陸地方とは稍異なる。日本脳炎との関係は確証は握られなかったが、全然無関係とも云えない。文献 水川希六：倉敷市に於ける蚊の季節的消長，日新医学，36(9)：411-415, 1945. 大島正治：長崎縣地方の蚊，医学と生物学，19(3)：159-162, 1951, 木水英夫：1950年福井縣鯖江地方に於ける蚊の季節的消長，医学と生物学，24(2)：51-55, 1952, a 25(3)：127-130, 1952, b.

〔山口医大臨床病理〕

標本と写真(卵)が、説明のための模式図と共に供覧された。

Anopheles hyrcanus sinensis Wiedemann, 1828

Anopheles hyrcanus lesteri Baisas et Hu, 1936

Anopheles yatsushiroensis Miyazaki, 1951

Anopheles sineroides Yamada, 1924

特に分類上の著明な特徴としては4種ハマダラカの卵背面の広狭、蛹の頭胸部呼吸角間の色素斑の有(*lesteri*)無(他の3種)が鏡下に示された。

〔九大寄生虫〕

恙虫の生態写真

佐々 学

Sasa, M.: Demonstration of the photographic pictures of *Trombicula akamushi* (Brumpt) reared in the laboratory

文部省学術映画「恙虫」において鈴木喜代治氏が当研究室で撮影した写真を展示し、その發育史における各期の生態的な記録に供した。

〔傳研寄生虫〕

食品倉庫に大発生を見たコナダニ類

飯田 鈴吉

Iida, S.: Studies on the grain mites (tyroglyphoid or acaroid mites) of store-houses

我々は東京近郊の食糧倉庫において1952年7月にコナダニ類が大発生した事例を知り、その調査を行つた。約6,000トンのアメリカ、カナダ産大麦及び小麦の倉庫において7月6日に従業員がこの床上にダニのいることに気づいたが我々のしらべた18日にはおびただしい数に達し、その床上のダニ数を算出したところ多いところで1平方メートルに5500万疋、少いところでも1380万疋に上つた。これらの種類は *Glycyphagus destructor* Shrank と *Acarus Siro* Linne の2種の混合で、このほかツメダニ *Cheyletus* sp. も存在した。(詳細は公衆衛生に報告の予定)

〔傳研寄生虫〕

シナハマダラカ群の卵、蛹及び成虫の標本供覧

宮崎一郎・大鶴正満・加茂 甫

Miyazaki, I., Otsuru, M. & Kamo, H.:

Demonstration of the specimens of the eggs, pupae and adults of anopheline mosquitoes

下記の4種のハマダラカを分類上の便宜から、シナハマダラカ群として取扱い、それぞれの卵、蛹及び成虫の

紙上発表

1952年東京における蚊の季節消長

北岡正見・江間 実・緒方隆幸

Kitaoka, M., Ema, M. & Ogata, T.: Seasonal occurrence of mosquitoes in Tokyo during the year 1952

1949年以来継続して来た上野動物園の蚊の採集を1952年にも行つた。採集場所(昨年迄採集した牛舎はロバ小屋に変更した)。採集方法等の條件は今迄のそれと同様である。1月より採集を始め、その季節的消長を見たが12月迄に7種、総数1951匹の蚊が採集された。その割合は *C. trit.* 53.3%, *A. vex.* 21.8%, *C. pip.* 17.7%, *An. hyr.* 5.8%, *A. tog.* 0.6%, *A. jap.* 0.4%, *A. alb.* 0.2%であつた。1人1時間の最高採集数は8月15日の868匹で、1951年の594匹に比べて多少多く、1950年の2,158匹、49年の1,692匹に比べて遙かに少ない。又採集総数についても52年は49年、50年の凡そ $\frac{1}{3}$ であつた。これ等主な蚊の4種類について逐日的に消長を見ると、*C. pip.* の越冬蚊と思われるものが1月10日に採集されたが、1月中旬から3月中旬迄一旦採集されなくなり、3月26日より再び採集され、4月4日、7月10日、8月21日、9月5日、9月24日、10月15日、11月6日に夫々山が見られた。この7つの山の間に例年の様に5月上旬、7月上旬、8月下旬に大きな谷が認められた。*C. trit.* は6月12日に始めて採集され逐次急激に増加し例年より10日余遅れて所謂“山田の頂”を作り、その後急に減少した。尙お7月中旬に小さな谷を認めた。この“山田の頂”の遅れたことと、日本脳炎の晩発型の流行を示したことについては検討するべきである。*A. vex.* は5月3日に始めて採集され、